

## 東亞天文協會觀測部月報

### 黄道光課報告 (1932年Ⅻ月)

課長 荒木健兒

秋の名残りの曉の黄道光は淡いながらもまだ見える頃であるが、宵西天の黄道光は益々元氣よく、その勢は「寒いから——」などと弱音をはい奴をけしとばしてしまひさうである。これに反して、對日照は牡牛星座の銀河の中にあり、観測は先づ不可能に近い。來年のインフレ景氣を待つてゐる。長い間熱望してゐた南國に有力な一観測者を得た。太陽黒點や流星に活動してゐた臺中の松本君の参加である。臺灣に二人の観測者をあたへられて、黄道光課は明るくなつたやうである。

この月は比較的天候にめぐまれ、例の大黒點にも刺戟されて、観測は愉快に行はれた。観測者は15名の盛況である。

#### 1. 観測者及び観測數

観測者	略符	観測地	黄道光	對日照
荒木健兒	Ar	倉敷天文臺	1	2
浅野英之助	As	山口縣長府町	3	
福井實信	Hk	大阪府池田町	4	
廣瀬永治郎	Hr	岐阜縣美濃町	10	
橋本迪	Hs	兵庫縣相生町	3	
窪田繁夫	Kb	京都府福知山	3	
下保茂	Kh	札幌市	12	
金森丁壽	Kn	長野縣水内村	5	
沓掛七二	Kt	長野縣青木村	2	
松本武男	Mt	臺中市	4	
坂元鐵馬	Sk	福岡市外箱崎	2	
佐野英生	Sn	山梨縣身延山	3	

田 端 實	Tb	新 竹 州 公 館	3
渡 邊 恒 夫	Wt	大 分 縣 杵 築 町	2
山 田 長	Ym	山 口 縣 小 郡 町	2

## 2, 黃道光の觀測日一覽 (數字の下に短線を加へてゐるのは東天の觀測)

Ar											21			
As						17			21		23			
Hk									20	22	23	30		
Hr	1		<u>9</u> <u>10</u> <u>11</u>			16	17	18	20	21	23			
Hs							17		20			30		
Kb							17	18			23			
Kh	<u>1</u>			<u>11</u>	15	16	17			22	23	24	<u>28</u> <u>28</u> <u>29</u> <u>29</u>	
Kn	<u>1</u> <u>2</u> <u>3</u>							18			23			
Kt							17			21				
Mt										21		23	28	29
Sk											22		30	
Sn							17			21	22			
Tb							16	17		21				
Wt								18			22			
Ym										21	22			

## 3, 上旬曉の黃道光

三君によつてかなり明るく觀測されてゐる。金星は低いから文句はないが、木星が頂點附近に頑張つて多少妨げてゐる。黃道光の離角はあまり大きい値ではない。精々90°であるから普通である。變化は殆んど認められない。廣瀬君は1日5時10分といふ薄明直前の時刻をとつてゐるが、非常に明るいものであつた。金森君は3日4時といふ早い時刻に明瞭にとつてゐる。太陽黑點の力であらうか？ 11日は月令13の月の沈んでからの時刻が利用された。少し明るい空に認め得たのも面白い收穫の一つである。下保君が著しい中心線の傾きとかなりの消長に注目してゐるのは肉眼にも見えたあの黒點の作用であらうか？ (花山急報第20號, 21號, 23號)

## 4, 上旬西天の黃道光

細い月がある。金森君は頂點のあたりだけ細長く見てゐる。2日には黃經45°のあたりがくびれてゐるスケッチを得てゐる。多分光帯であつたと思ふが、いづれも不充分である。

## 5, 黃道光と黃道光帯との分離

臺灣の田端君がしきりに試みてゐる。黃道光帯がかなり廣くて明るいのでむつかしいらしい。しかし、この問題はむしろ高緯度の理想的觀測地で、黃道光が明るい時には可能と思はれる。

## 6, 黃道光帯の位置

多くの場合黄道からやや北に偏してゐる。頂點の位置と密接な関係をもつ。廣瀬君は16日に約 $5^{\circ}$ も北偏を見、暫く後には大體黄道上に復してゐるのを見、田端君は時々その不規則形及び變動さへ注意してゐる。(花山急報第23號)

## 7, 17日宵の8個の觀測

實に美しい光帯がとられてゐる。沓掛君は初歩のため、窪田君は薄明中のためか光帯がとられてゐない。廣瀬君は時刻を少しおくらせて、<sup>1</sup>淡い黄道光を明瞭に見るのみで、バンド認めず<sup>2</sup>としてゐる。北海道では勿論淡い。(花山急報第23號)

## 8, 中旬の西天の黄道光

次第に明るくなつて光帯を伴ひ、幅廣い堂々たる姿であつた、來るべき新春の盛觀が豫想される。(花山急報第23號)

## 9, 寫眞による黄道光の明るさ

私は18日の西天、黄道光(赤經21時30分あたりの黄道上)を19時から25分間、北極空を19時30分から同じく25分間、いづれも固定のまま同一乾板上にとつてみた。その結果は黄道光の方がやや明るいであらうかといふ程度以上にはわからない。

坂元君は22日と30日とに、眼視觀測と共に、かなりおそい時刻を、黄道光と北極とを同一乾板に撮影してゐる。二枚の印畫もスケッチに貼付してある。これによると、北極空が意外な明るさを持つやうであるが、にはかに決斷を下し得ないものがある。(黄道光課通信第20號)

## 10, 下旬下保君の曉の觀測と宵の黄道光帯

光帯に對して超然としてゐた吾が北國の雄は、28日かなりおそい時刻に、羊座の西境に達するやや北偏りの光帯をとつてゐる。幅は至つて狭い。黄道光と分離が出來さうである。28日の東西兩天のものを見ると、曉の方が少し短くて狭い。29日の兩天のものは全く同一形狀になつてゐる。北海道に於ける12月終の曉の觀測は珍しいものである。

## 11, 明るさの中心線の彎曲

金森君は1日、18日、23日に中心線の不規則な曲りを見てゐる。殊に頂點附近の淡いところでは、バツクになつてゐる微恒星の光にわづらはされることあるから、餘程注意深くしらべる必要があり、將來の問題と思ふ。

## 12, 黄道上以外の異常光帯

黄道光の本體から南北に見える光帯を佐野君は一回も見てゐない。

## 13, 黄經 $20^{\circ}$ のあたりの明るい空

坂元君は30日夕の觀測に於て、魚座と鯨座との境界に當り、長さ $28^{\circ}$ 幅 $6^{\circ}$ の長楕圓形の明空部を注意してゐる。これは昨年もあつた由である。

## 14, 光度計による黄道光の明るさの決定

下保君は16日と24日との二回、黄道上の數個所と比較銀河と北極空とを、光度計に

よつて數字的にしらべてゐる。空の明るいことや銀河の極めて淡いことに注目してゐるのは面白い、

15, 對日照觀測日一覽 (1932年11月と12月)

Hr	1				21	22	23		28	29	30	1	2
Kb	1	2	18	19	21	22	23	24					
Kh		2		19	21	22							
Kn				19									
Sk		3											
Sn			18	19	21	22	23						
Ym						22							

16, 對日照の概況 11月はじめの對日照は宵の月没後である。窪田君の如きは20時13分といふ早い時刻に既にとつて居られる。10月末の紡錘形或は長橢圓形がそのまま變化してゐない。廣瀬君は西方に、坂元君は東方にバンドを取つて居られる。明るさの中心點はやや東に偏してゐる。(花山急報第15號, 第19號)

中下旬の對日照は月出前であり、すべて夜半前である。橢圓形に近い形になりつつある。西方に光帶を見られてゐることが多い。但し、東方は銀河に妨げられて不明である。(花山急報第21號, 22號)

12月は1日と2日との廣瀬君の觀測があるだけである。プレヤデスあたりの小さい橢圓形であるが、銀河のため正確でない。特別に明るければ見えるであらうが、この頃の觀測は困難を極める。(花山急報第23號)

17, 對日照に似た怪光

窪田君の御觀測で、前號に發表した後數回にわたつてスケッチをとられた。黃道に近く存在する薄光で、同君は永久的のものではあるまいかといつて居られる。對日照の形の變化に對する一要素と考へられる。(花山急報第17號, 課通信第19號)

18, その他の怪光現象はこの報告から省く。尙、花山急報によれば、古畑君が活動して居られるが、私宛には報告がないから省く。

19, 札幌の小田島謙三君の黃道光及び對日照の觀測

北海道帝國大學工學部學生小田島君は10月31日から11月6日までの東天を4回、11月21日から12月24日までの西天を6回、11月中の對日照を3回觀測され、數日の病臥の後12月29日死去された。哀悼に堪へない。親友下保君によつて整理された觀測記録を見て、その精密さに驚いてゐる。黃道光課の將來を托すべき人物であつたが、誠に残念である。(黃道光課通信第20號)

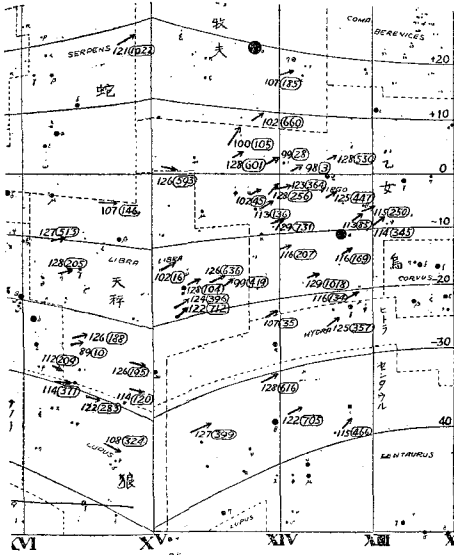
今同君の觀測の大要をいふと、觀測はすべて夜半近く行はれてゐる。10月31日の2時30分東天、12月18日の21時西天、11月4日の3時30分對日照の如きである。特に注目すべき點は、黃道光の等光線にそひ、或はそれを横切つて、暗線の錯雜してゐること、

種々な方向に光の枝をみとめてゐること、黄道近く黄道光の内部に直径約9°の圓形暗黒部の存在をみとめてゐること等である。消長や變動も觀測されてゐるし、薄明のスケッチの加へられたものもある。教へられる點が多い。

20, 以上の外に、和歌山縣の小槇流星課長により、22日と23日とに西天の黄道光が見られたが、スケッチがないので報告には省いた。(花山急報第23號)

### 寫 眞 課

本年4月末の頃  
我が地球に接近する  
小遊星の位置と  
運動方向を示す。  
数字は光度、  
( ) の中は星の番  
號。



### 急 報 !!

#### 異才故 中村要氏の遺稿 反射望遠鏡の研究

を30部限り實費1.00圓(送料不要)で御頒ちします。早く申込まれよ。

(東亞天文協會觀測部)

(1933年) 太陽黒點相對數報告 (二月)

觀測者(地名)	松木(臺中)	渡邊(杵築)	淺野(長府)	山田(小郡)	荒木(倉敷)	改發(須磨)	伊達(雲雀丘)	大橋(京都)	龜井(花山)	木邊(近江)	森(大垣)	三澤(諏訪)	沓掛(長野)	笹川(埼玉)	水谷(東京)	千葉(水澤)	下保(札幌)
鏡徑(耗)	58	80	70	75	75	150	36	90	55	73	78	73	102	150	38		58
倍率	40	64	60	48	75	68	55	94	64	60	92	83	75	50	50		44
方法	直視	投影	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	投影	直視		直視
1	69	曇	雪		77	68	51	曇	43	42	54	49	53		46	33	64
2	70	曇	曇		82	90	60	58	54	58	54	58	曇		60	44	60
3	69	86	79		90	92	56	61	60	62	53	58	62		62	雪	62
4	79	91	68		曇	101	58	曇	60	95	66	55	77		原	62	41
5	73	105	70		112	119	68	曇	71	87	旅	81	110		81	43	忙
6	69	雨	68		曇	曇	曇	曇	94	曇	85	82		原	病	48	78
7	70	105	雨		曇	曇	雨	曇	75	98	94	86	77	原	病	52	71
8	55	曇	雨		雨	曇	曇	雨	曇		雨	雪	曇	縮	70	38	60
9	63	雨	雨		曇	曇	61	曇	60	72	59	64	61	切	68	曇	49
10	曇	69	49		78	77	60	41	52	52	63	60	59	り	61	29	38
11	46	曇	雨		58	64	病	42	41	45	45	46	欠	迄	曇	23	30
12	31	35	56		42	46	31	欠	28	29	旅	33	欠	迄	曇	曇	曇
13	14	曇	曇		40	27	病	12	25	27	忙	15	24	に	13	曇	13
14	0	0	12		病	欠	曇	0	12	26	0	12	11	到	11	雪	12
15	0	0	0		病	欠	0	0	0	12	曇	12	0	着	0	0	0
16	0	曇	0		病	0	曇	0	0	0	0	0	0	曇	曇	曇	0
17	0	曇	0		0	0	雪	0	雪		0	雪	雪	雪	雪	曇	0
18	0	曇	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	雪	0	曇	0
19	曇	0	0		旅	0	0	0	0	0	忙	0	0	ザ	0	雪	0
20	曇	曇	0		旅	0	曇	0	0	0	0	0	0		0	0	0
21	0	0	0		旅	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
22	0	曇	0		旅	0	曇	0	曇	0	曇	0	曇	雪	0	曇	0
23	0	曇	0		旅	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
24	0	曇	病		旅	0	曇	0	雨	曇	曇	雪	雪		雨	曇	雪
25	0	曇	病		旅	0	0	0	0	0	0	雪	0		0	0	0
26	0	曇	病		0	0	曇	0	0	0	曇	0	曇		0	曇	0
27	0	0	病		12	0	曇	曇	0	0	病	0	0		0	0	0
28	曇	11	22		22	22	忙	曇	23	22	病	22	11		11	11	22
平均	27	42	25		47	32	32	12	26	33	31	32	35		26	23	25
日數	23	12	17		13	22	14	18	23	25	16	23	18		21	16	25

太陽課

幹事龜井

○2月分の

觀測を御報告

いたします。

此月から左表

の如く、鏡徑(耗)、倍率、

方法をも添えることにいたしました。